

令和5年度岩出市立山崎北小学校スクールプラン



【学 校 教 育 目 標】

校訓：強く 明るく 正しい子

自ら考え、自ら学び、自ら行動できる子どもの育成を図る

【めざす児童像】

- ・夢と希望を持ち、自ら考え、進んで学習に取り組む子ども
- ・自分も友達も大切に、それぞれの良さを認め、豊かな心を持つ子ども
- ・心身ともに健康でたくましい子ども

前年度の学校評価

- 情報発信し、開かれた学校づくりに努めている。
- 行事を工夫して行うことができています。
- 教職員の実践力や組織力の向上がみられる。
- 児童の、基礎・基本の習得、思考力、判断力、表現力を育むことに課題がある。

児童の実態

- あいさつを進んでできる
- 明るく活発に遊ぶことができる
- 心にしんどさを抱えた子どもが多い
- 学校のルールを守ることができにくい
- 地域行事への参加が少ない

岩出市学校教育指導方針

めざす子ども像
「将来に向けた「生きる力」をもった子供」
・確かな学力 ・豊かな心 ・健やかな体
持続可能な社会の創り手へ

保護者・地域の願い

- 基礎学力を定着させてほしい
- 楽しいと思える学校にしてほしい
- 前向きに努力する子どもになってほしい
- 安全に過ごしてほしい
- 地域に愛着を持てるようになってほしい
- 地域への行事に積極的に参加してほしい

確かな学力の向上

- ◎基礎基本の確実な定着
- ◎研究主題「自分の考えを持ち、伝え合う力を高める算数を目指して」（1年目）
- ◎読書活動の推進
- 家庭学習の定着・充実

豊かな心の育成

- ◎人権教育・道徳教育の充実
- ◎自分のことを大切に、また、友達の良さを認めたり、褒めたりし合える仲間作り
- いじめを生まない雰囲気づくり、未然防止、早期発見、早期対応

健やかな体の育成

- ◎健康で安全な生活習慣の定着
- 食育指導の充実
- ◎生活全般において、児童自ら危機を予測し回避できる力を育む
- ◎体力・運動能力の向上

地域に関わった学校

- ◎保護者、地域との連携を密にした学校づくり
- 地域の人材や資源を有効活用した教育活動の充実（ふるさと教育の推進）
- 保幼・中の連携の推進

重点目標

具体的な取組

指標

- ◎「和歌山の授業づくり 基礎・基本3か条」を活用し授業スタイルを統一する。
- ◎学力向上3部会（研究授業部会、タブレット部会、スタンダード部会）それぞれの取組による授業改善、授業力の向上
- 朝学、補充学習の工夫と充実
- 家庭学習を推進（家庭学習の手引きの活用）し、充実させる。
- 図書館司書やボランティアを活用する。
- 学習環境の整備と充実を図る。

- ◎教職員における人権教育の理解を深め、実践につながる研修を行う。
- ◎学級活動や児童会活動、縦割り活動など、子どもたちが主体的に活躍できる機会を設け、お互いを認め尊重し合える居心地のよい学級・学校づくりに努める。
- 年3回（学期毎に1回）いじめアンケートを実施する。
- 「特別の教科 道徳」の充実
- ◎SC、SSWを活用した、関係機関等（岩出市総合福祉センター、医療機関、支援学校、聾学校、盲学校他）と連携する。
- 「学校のきまり」「学習規律」「世の中のきまり」等の周知に努める。

- ◎「早寝・早起き・朝ごはん」を推奨し、家庭との連携を図る。
- ◎病気や事故、災害等から自分を守るための食育や保健教育、安全教育を充実させる。
- 情報モラルについて児童に指導し、保護者への啓発を行う。
- 感染症等の予防の徹底。
- ◎体育専科教諭を活用し、体育の技術や知識向上に取り組む。また、全国スポーツテストの結果に基づき、体力作りや授業改善を図る。

- ◎保護者、地域へ校報やホームページ等で、積極的に学校の様子を発信する。
- 授業や行事等を公開する。
- 保護者、地域の登下校の見守り活動を実施する。
- ◎コミュニティスクールの充実を図る。
- 地域人材を活用した学習活動を実施する。
- 保幼・中学校との交流をする。

- ・無回答を100%に近づける
- ・「友達に自分の考え・意見を伝えることができる」 児童評価 85%以上
- ・「友達と話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる」 児童評価 85%以上
- ・「『学び合い』が学級で実施できている」 教員評価 100%
- ・「授業力向上に取り組んだ」 教員評価 100%

- ・「学校に行くのが楽しい」 児童評価 90%以上
- ・「自分には良いところがある」 児童評価 90%以上
- ・「友達の良いところを見つけることができた」 児童評価 90%
- ・「子どもは、学校へ行くことを楽しみにしている」 保護者評価 90%以上
- ・いじめ解消 100% ・不登校を0に近づける
- ・困り感を持った児童、保護者を関係機関等につなぐ 100%

- ・食育授業を各学年1回以上実施する。
- ・「朝ご飯を食べた」 児童評価 100%
- ・発達段階に応じた情報モラルについての学習を各学年1回以上実施する。
- ・全国スポーツテスト A層+B層児童60%以上

- ・「学校の様子がよく伝わった」 保護者評価 90%以上
- ・「子どもの様子を積極的に伝えた」 教員評価 95%以上
- ・「保護者との連携を密にする」 教員評価 100%
- ・「地域人材を活用する」 教員評価 95%

◎…特に重点的に取り組むこと